

重点となる具体の学校経営目標（1） 【学力向上】

1人1台端末をより効果的に利用して「知識・技能」のみならず「思考力・判断力・表現力等」及び「学びに向かう力、人間性等」をはぐくむために「主体的で対話的で深い学び」に繋がる授業に進化させる。

| 課・室<br>学 科 | 重点目標  | 具体的計画  | 達成基準   | 中間   | 評価 | 最終  | 評価 | 外部<br>評価 |
|------------|---|--|--|--|----|---|----|----------|
| 教務課        | <ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーション能力の育成を軸として、より質の高い授業が行えるよう支援する。</li> </ul>                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>ICTやコミュニケーション能力の育成につながるような研修会をおこなう。</li> <li>公開授業週間を企画し、教科横断で授業の改善が図れるようにする。</li> </ul>                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>本校教員の研修会への参加率が <b>80%以上(R04 84%)</b>となる。</li> <li>アンケートで「コミュニケーション能力の育成を意識した授業が行えたか」が <b>90%以上(R04 95%)</b>となる。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>5月におこなった「自動採点システムについての研修」では、<b>26名</b>の参加（参加率<b>43%</b>）し、自動採点の利用方法を学んだ。</li> <li>年度当初から「コミュニケーション能力の育成」については、教職員及び生徒へも周知している。また、<b>3年目</b>ということで学校全体において意識は広がりとつあると考えている。</li> </ul>   | B  | <ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートの結果、<b>74%</b>が「参加した」と回答。校外への研修会への参加も<b>62%</b>が「参加した」と回答。</li> <li>アンケートの結果、<b>85%</b>の教員がコミュニケーション能力の育成を意識した授業が行えたと回答。教員が意識して取り組んでいる様子がうかがえる。</li> </ul>  | B  | B        |
| 進路指導課      | <ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力の定着と「主体的に学びに向かう力」を育む。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>進路実力考査の事前・事後指導、小論文指導を行い、生徒の学習意欲を高める。</li> <li>就職、進学に関する補習と模試を実施し、基礎学力の定着と応用力を高める。</li> </ul>                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>1・2年の進路実力考査（2回目）で、国数英GTZを各学年でBゾーン以上を<b>30%以上(R04 38.9%)</b>、Dゾーンを<b>15%未満(R04 9.6%)</b>にする。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>1回目（4月）の結果は、Bゾーン以上が1年生<b>63.8%</b>、2年生<b>32.8%</b>。Dゾーンが1年生<b>1.3%</b>、2年生<b>22.0%</b>であった。2回目に下降しないよう各教科や学年団と連携し、適切な時期に事前学習教材を渡し、学力向上に取り組みたい。</li> </ul>   | B  | <ul style="list-style-type: none"> <li>進路実力考査（2回目）の結果、Bゾーン以上1年：<b>46.1%</b>、2年：<b>30.5%</b> Dゾーン以下1年：<b>7.1%</b>、2年：<b>12.1%</b>であった。特に、1年生の基礎学力の定着を図りたい。</li> </ul>  | B  | B        |
| 図書視聴覚課     | <ul style="list-style-type: none"> <li>「知識・技能」のみならず、「思考力・判断力・表現力等」及び「学びに向かう力、人間性」を育むために、生徒に読書と図書館利用を勧める。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>委員会活動を活性化し、校内での企画・展示などの充実を図る。</li> <li>広報誌の充実とともに、生徒・保護者へのアピールを活発に行い、広報活動を充実させる。</li> </ul>                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>年間貸出<b>0冊</b>の生徒が全体の<b>5%(R04 15.3%)</b>を下回っている。生徒1人あたりの図書貸出冊数平均<b>8冊以上</b>のクラス数が全体の<b>65%(R04 48%)</b>、全校の年間総貸出冊数が<b>9,000冊(R04 7,907冊)</b>を超えている。</li> <li>広報誌や掲示板などを用いた生徒・教職員、保護者への広報が<b>10回(R04 14回)</b>を上回っている。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>貸出冊数<b>0冊</b>の生徒が<b>22%</b>、<b>1人平均8冊以上</b>を達成したクラスは<b>17%</b>、8月末の総貸出冊数は<b>4,407冊</b>（1年<b>1,487冊</b>・2年<b>2,441冊</b>・3年<b>424冊</b>）。<b>9,000冊</b>の目標に向けて、全教職員の声かけが必要である。</li> <li>生徒向け広報紙を<b>6回</b>発行したり、図書委員や教職員に呼びかけ、読書に関する名言作りやオススメ本の紹介を行ったりした。</li> </ul> | B  | <ul style="list-style-type: none"> <li>図書室の年間貸出<b>0冊</b>の生徒が全体の<b>17.8%(R04 18.8%)</b>、生徒1人あたりの図書貸出冊数平均<b>8冊以上</b>を達成したクラス数は全体の<b>42%(R04 44%)</b>、生徒の総貸出冊数は<b>7,480冊(R04 7,089冊)</b>であった。今年度はアンケートでの実態把握を行い、打開策を検討した。その結果、若干回復した。</li> <li>保護者の肯定的評価が<b>53%(R04 56%)</b>と安定している。保護者向け・生徒向けの広報誌、図書委員会発行図書館だよりなどの<b>14回(R04 14回)</b>の発行、保護者対象のアンケートの実施などが功を奏した。</li> </ul> | B  | B        |
| 情報デジタル室    | <ul style="list-style-type: none"> <li>校内におけるICT環境整備の推進において、GIGAスクール構想の下で整備された生徒1人1台端末の積極的な活用等を推進する。</li> </ul>     | <ul style="list-style-type: none"> <li>Google Workspaceのフォームを使い健康観察、及び、カレンダーの活用を図る。</li> <li>Google Workspaceの利活用を各教科と連携を図り、運用面の推進を行う。</li> </ul>            | <ul style="list-style-type: none"> <li>終始業式やLHR、講演会などの日常の業務、教科指導等において、Google Workspaceを活用している教員の割合が<b>100%(R04 100%)</b>になる。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>1年生の端末を配布。全員に対して利用法、利用マナー等のオリエンテーション資料をもとに行った。</li> <li>文化祭、体育祭、始業式、外部講師の講演など、日常的にGoogle Workspaceを活用できている。</li> </ul>  | B  | <ul style="list-style-type: none"> <li>日常の校務では、Classroomを活用して、クラスへの連絡事項の伝達、欠席連絡フォームを活用して出欠、遅刻の確認を行った。</li> <li>教科指導においては、教材提示、講演会のリモート配信を行い、すべての教員がGoogle Workspaceの活用を行った。</li> </ul>  | B  | B        |
| 商業科        | <ul style="list-style-type: none"> <li>1人1台端末を効果的に利用し、学科の特色ある学びを主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決できる人材を育成する。</li> </ul>         | <ul style="list-style-type: none"> <li>同じ科目担当者間の教材・情報の共有をし、チームで指導にあたる。</li> <li>積極的に資格取得に挑戦できるような日々の授業を充実させていく。</li> <li>1人1台端末の活用し、効果的な指導法を研究する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>学校評価調査の「高度な資格取得や全国レベルの競技大会に挑戦」の項目の回答が「よく当てはまる」「やや当てはまる」が<b>90%以上(R04 97%)</b>になる。</li> <li>全商1級3種目以上合格者が<b>100名(50%)(R04 127名)</b>以上になる。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年度岡山県高等学校職業教育技術顕彰（前期）の被顕彰者は<b>98名</b>。（昨年度末<b>117名</b>）</li> <li>全商1級3種目以上合格者が増えるよう、教科指導を工夫する。（昨年度末<b>125名</b>）</li> </ul>   | B  | <ul style="list-style-type: none"> <li>学校評価調査の「高度な資格取得や検定受験、全国レベルの競技大会に挑戦」の項目の回答が「よく当てはまる」「やや当てはまる」が<b>97%</b>であった。（R04<b>97%</b>）</li> <li>全商1級3種目以上合格<b>112名 58%(R04 125名 58%)</b>、岡山県高等学校職業教育技術顕彰対象者<b>114名 59%(R04 117名 54%)</b>。</li> </ul>  | B  | A        |
| 家庭科        | <ul style="list-style-type: none"> <li>情報機器を活用しながら、新学習指導要領に基づいた新しい学科の学びを確立させる。</li> </ul>                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>Chromebookや天井カメラシステム、アパレルCADを活用しながら知識や技術の習得につながる授業を行う。</li> <li>コミュニケーション能力の育成を目指し、対話的な授業になるよう工夫する。</li> </ul>        | <ul style="list-style-type: none"> <li>学科のアンケートにおいて、「社会人基礎力が身についた」とする回答が、<b>90%以上(R04 99.3%)</b>となる。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>実習室ではChromebookを使って動画を流したり、天井カメラシステムや実物提示装置を使って示範の内容や手法を示したりしている。生徒からは、「先生の手元が見えてわかりやすい」、「動画を見ながら一人で作業を進めることができよいい」などの前向きな意見がある。</li> </ul>   | B  | <ul style="list-style-type: none"> <li>学科アンケートにおいて「社会人基礎力が身についた」とする割合が、1年生<b>93.2%</b>、2年生<b>96.0%</b>、3年生<b>97.3%</b>となった。</li> <li>アパレルCADや天井カメラシステムを授業の中で活用することができた。来年度から全学年が一人体端末を活用した学習を行うため、さらに効果的な活用方法を模索して教員間で共有したい。</li> </ul>   | B  | A        |

| 重点となる具体の学校経営目標（2） 【徳育推進】  |   |  |   |  |    |  |    |          |
|---|---|--|---|--|----|--|----|----------|
| 礼儀・マナーに関する指導を充実させる。また、人間関係構築力、規範意識及び人権意識を育み、いじめや暴力は絶対に許さない生徒を育てる。 |   |  |   |  |    |  |    |          |
| 課・室<br>学 科  | 重点目標  | 具体的計画  | 達成基準  | 中間   | 評価 | 最終   | 評価 | 外部<br>評価 |
| 総務課   | ・社会貢献活動を通して、視野を広げるとともに社会性を養う。   | ・社会貢献活動の意義を理解させるために、生徒対象のガイダンスや研修会を企画し開催する。<br>・学年・学科・部（同好会）・委員会などの単位で、社会貢献活動の機会を多く設け、生徒が積極的に取り組めるようにする。 | ・年度末に社会貢献活動の参加者が <b>2,500名(R04 1,893名)</b> を超える。<br>・学校評価アンケートで社会貢献活動の肯定者が <b>90%(R04 93%)</b> を超える。                              | ・9月22日現在（報告済分）の社会貢献活動参加延数は <b>853名</b> （1年 <b>219名</b> 、2年 <b>357名</b> 、3年 <b>277名</b> ）である。ここまでは順調にきている。<br>今年度は岡山マラソンのボランティアに例年以上に申し込みがある。その他の校外での活動も活発である。今後もしっかり呼びかけていく。 | B  | ・1月31日現在（報告済分）の社会貢献活動参加延数は <b>1,793名</b> （1年 <b>547名</b> 、2年 <b>593名</b> 、3年 <b>653名</b> ）である。3年生は3年間で5回の社会貢献活動はほぼ達成できた。<br>・学校評価アンケートでは生徒は <b>98%</b> が肯定的にとらえている。（保護者 <b>83%</b> 教職員 <b>98%</b> ）  | B  | B        |
| 生徒課   | ・校内外において礼儀・マナーに関する指導を充実させる。また、人間関係構築力、規範意識及び人権意識を育み、いじめや暴力は絶対に許さない生徒を育てる。 | ・校門指導や交通指導を通してマナーの向上を図る。<br>・制服着こなしガイドを活用し、生徒・教職員が共通理解できるようにする。<br>・生徒が相談しやすい環境を作る。                      | ・自転車の安全利用、交通安全意識の向上が <b>85%以上(R04 80%)</b> になる。<br>・外部からの苦情電話の件数が <b>減る</b> 。<br>・生活アンケートや学校評価調査の中で大きな問題がなく、人間関係構築力や人権意識の向上がみられる。 | ・交通に関する苦情が <b>10件</b> （9/20 現在）あり、その都度注意、指導を行っている。指導を継続的に行い、マナーの向上に努めたい。<br>・生徒間の人間関係のトラブルに対して、担任、学年団、部顧問、生徒課等で可能な限り相談しながら対応に当たった。   | B  | ・交通自治委員会が月に一度、各学年で交通だより「アゴラ」を発行したり、交通標語の募集や交通ポスターの掲示をして交通マナー向上の啓発活動を行った。また、風紀委員・誠友会が中心となり、朝のあいさつ運動を実施し、礼儀やマナーを身につけることの一助となった。<br>・学校評価アンケートでは、礼儀やマナーを身につけ、規則を守ることに <b>90%</b> 以上となっており、規範意識の育成はなされているが、交通マナー等の外部からの苦情が <b>15件</b> （1/24 現在）あり、今後も継続的な指導が必要である。<br>・生活アンケートを学期ごと <b>3回</b> 実施。大きないじめにつながるトラブルはないが、人間関係の構築が難しく、心が安定せず、日常的に不安を抱えている生徒が存在する。 | A  | A        |
| 人権・教育相談室  | ・LHR・総合学習において、より効果的な人権教育の推進に努めるとともに、教職員研修の充実を図る。                          | ・人権・教育相談講演会（1年）（5月）<br>・人権・性教育講演会（2年）（1月）<br>・主権者教育LHR（3年）（10月）<br>・主権者教育LHR（2年）（7月）<br>・人権・教育相談教員研修（7月） | ・講演会の感想・アンケートによる生徒の人権意識向上が <b>85%以上(R04 84%)</b> になる。<br>・教職員のアンケートによる研修の充実度が <b>85%以上(R04 90%)</b> になる。                          | ・今年度、1年、2年の講演会ともにたいへん好評で、ほぼ全員の生徒が人権に対する意識が向上したと答えている。<br>・SSWによる充実した教員研修を行うことができた。   | B  | ・講演会の感想・アンケートによる生徒の人権意識向上が <b>85%</b> 以上となり、人権に対する意識が向上したと考えられる。<br>・SSWによる充実した教員研修を行ったことにより、それ以前よりSCとSSWの相談にスムーズにつながるできるようになった。   | B  | B        |

| 重点となる具体の学校経営目標（3） 【グローバル人材育成】  |   |   |  |  |    |   |    |          |
|--|---|---|--|--|----|---|----|----------|
| SDGsの視点を生かしたグローバル人材の育成に向け、積極的に国際交流行事に参加させたり、日本文化に触れさせるとともに、文化的行事や文化部の活動を通じて豊かな感性を養う。 |   |   |  |  |    |   |    |          |
| 課・室<br>学 科   | 重点目標  | 具体的計画   | 達成基準   | 中間   | 評価 | 最終  | 評価 | 外部<br>評価 |
| 総務課  | ・種々の活動を通して、コミュニケーション能力を高めるとともに、広い視野を持ち、異文化を理解する態度を養う。 | ・国際経済科においては、イングリッシュチャレンジ、異文化理解講演会を中心としつつ、他の取り組みにも積極的に参加させる。<br>・その他の学科においては、陸行中学校との交流、岡大留学生との交流等、積極的に国際交流行事の参加を呼び掛ける。 | ・学校評価調査で「様々な場面でグローバル教育が行われている」の生徒の肯定的な評価を <b>70%以上(R04 77%)</b> とする。<br>・国際経済科においてはアンケートによって満足度が高い生徒が <b>80%以上(R04 80%)</b> とする。 | ・4年ぶりに短期ホームステイをオーストラリア（ケアンズ）で実施した。（9日間）参加者は1～3年 <b>27名</b> であった。<br>・4月～1月の予定でドイツから <b>1名</b> 留学生を受け入れている。 | B  | ・4年ぶりにオーストラリア（ケアンズ）で実施した。（9日間）参加者は1～3年 <b>27名</b> であった。<br>・4月～1月の予定でドイツから <b>1名</b> 留学生を受け入れている。<br>・新年度もドイツからの留学生を受け入れる予定である。 | B  | A        |

**重点となる具体の学校経営目標（4） 【心身の健康】**  
 授業や学校行事、部活動を通じて自己肯定感を養い、健康教育・保健指導・教育相談機能を充実させて心身ともに健全な生徒を育成する。

| 課・室<br>学 科   | 重点目標   | 具体的計画   | 達成基準   | 中間   | 評価 | 最終  | 評<br>価 | 外部<br>評価 |
|--------------|--|---|--|--|----|---|--------|----------|
| 生徒課          | <ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事、部活動を通じて自己肯定感を養い、心身ともに健全な生徒を育成する。</li> </ul>    | <ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事、委員会活動、部活動に生徒が主体的に取り組める環境を作る。</li> <li>他の課や教育相談室との連携を図る。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>部活動加入率が<b>90%以上(R04 82%)</b>になる。</li> <li>誠友会行事、クラス活動、部活動、学校行事等に対する満足度・達成度が<b>90%以上(R04 90%)</b>になる。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>6月時点の部活動加入率は<b>87.8%</b>であった。</li> <li>県大会上位に入ったり、全国大会・中国大会に出場したりする部が多数あり、部活動は活発に行われている。</li> <li>飛翔祭に向け学校全体で取り組んでいる。</li> </ul>  | B  | <ul style="list-style-type: none"> <li>部活動加入率は<b>87.8%</b>で、昨年度より増加はしているがものの達成基準には未達であるが、運動部・文化部ともに全国大会に出場するなど活発に活動している。また、大きな大会に出場できなくても、多くの部活動で積極的に取り組んでいる姿が見られた。</li> <li>学校評価アンケートで、南高の学校生活に満足している生徒は<b>86%</b>で、昨年より下がっており、生徒の意見を取り入れながらより主体的に取り組めるように検討が必要である。飛翔祭では、生徒がルールを決めスマートフォンが使用許可になったが、大きなトラブルは無く、誠友会を中心とした活動の実績となった。さらに学校生活が充実したものとなるために、教員間で連携し、生徒とのコミュニケーションを図りながら南校生として誇りや自信が持てるようにしていきたい。</li> </ul> | B      | B        |
| 保健<br>厚生課    | <ul style="list-style-type: none"> <li>心身ともに健康で、主体的に健康管理ができる生徒を育成する。</li> </ul>            | <ul style="list-style-type: none"> <li>年間の活動テーマを決めて、生徒保健委員会と協力し、保健活動を推進していく。</li> <li>保健だより作成の際に年間テーマに沿った内容を取り上げる。</li> <li>保健委員による各クラスでの保健指導の充実を図る。</li> <li>受診した生徒の受診報告書を提出させ、受診率を高める。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>保健委員会活動への生徒保健委員の満足度が<b>90%(R04 未実施)</b>を超える。</li> <li>保健だよりを学期に<b>1回以上</b>発行し、生徒の自主的な健康管理を促す。</li> <li>不定期に昼食時放送などで、保健衛生について生徒委員に発信の場を設ける。</li> <li>各種受診率が<b>95%(R04 61.3%)</b>を超える。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>保健だよりを予定通り、月に<b>1回</b>の割合で発行し、健康管理の取り組みに大きく貢献している。</li> <li>各種受診率については、2学期始まって集約しているが、各クラスの受診率は昨年より順調に伸びており、当初目標を達成できる予定である。</li> </ul>   | A  | <ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ対策が変わり第5類対応となったが、依然として感染症(新型コロナ・インフルエンザ)の対応に奔走した。</li> <li>保健委員会活動が活発になり、保健便り発刊のほか昼休みの放送や集会時の動画放映など健康意識の高揚に役立った。</li> <li>各種受診率も、高受診率<b>95%超</b>の成果を得ることができた。</li> </ul>  | A      | A        |
| 人権・教育<br>相談室 | <ul style="list-style-type: none"> <li>問題を抱えた生徒の早期発見、対応に努める。</li> </ul>                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>相談室・学年団会議、心の健康相談後の連絡会等を活用し、生徒情報の収集・交換に努める。</li> <li>「ストレスチェック(悩みに関するアンケート)」等を有効活用し、生徒へのきめ細かい声かけを行う。</li> <li>SC・SSW・校医等の専門家や関係機関と連携し、支援・対応にあたる。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>学校評価調査の「心のケア」に関する項目において、「よく当てはまる」「やや当てはまる」の生徒の回答が<b>80%(R04 90%)</b>、教員の回答が<b>90%(R04 92%)</b>を超える。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>会議での情報交換、担任や保健室との連携等を通じて、問題を抱えた生徒を把握できており、スムーズにSCにつなぐことにより、心のケアや問題が解決へ向かうケースも多い。</li> <li>個別の支援計画や生徒情報一覧の活用が定着し、適切に支援できている。</li> <li>SSWとの連携により、学年での共通理解が図られる生徒が増えた。</li> <li>新たに教育相談室の開放日を設けることにより、より一層悩みを抱える生徒の早期発見に努めている。</li> </ul> | B  | <ul style="list-style-type: none"> <li>学校評価調査の結果は、生徒が<b>90%</b>、教員が<b>98%</b>となり、ともに向上しており、達成基準を満たしている。</li> <li>コロナが5類になり、活動が増えたため人間関係に関する悩みを抱える生徒が増加した。しかし、社会的にも校内的にも悩みを相談することが一般的になり、抵抗感が下がり、SC・SSW・精神科医への相談件数が約<b>140人</b>と昨年度より約<b>17%</b>増加した。</li> </ul>   | A      | A        |
| 1年団          | <ul style="list-style-type: none"> <li>授業や学校行事、部活動を通じて自己肯定感を養い、心身ともに健全な生徒を育成する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>日々の学校生活や学校行事において、生徒の努力や勇気をたたえ、褒めることで、自己肯定感を養う。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>学校評価調査の項目「南高では、学校行事や部活動に自主的・主体的に取り組む指導が行われている。」について、生徒・教員の肯定的回答が<b>90%(R04 93.5%)</b>を超えている。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>飛翔祭の展示に向けて、各クラスで協力して準備に取り組んでいる。</li> <li>学年の教員間で生徒情報を共有し、指導に活かすことができている。</li> </ul>   | B  | <ul style="list-style-type: none"> <li>飛翔祭や学年行事(校内・校外研修、百人一首大会)において、1年生として主体的に行事に取り組み、成果をあげた。</li> <li>学校評価調査の結果、肯定的回答は、生徒<b>95%</b>、保護者<b>90%</b>、教員<b>94%</b>となった。</li> </ul>   | B      | B        |
| 2年団          | <ul style="list-style-type: none"> <li>授業や学校行事、部活動を通じて自己肯定感を養い、心身ともに健全な生徒を育成する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>飛翔祭や球技大会等で、クラスの取り組みを重点的に行う。</li> <li>修学旅行でグループ活動を行う。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>学校評価アンケートで「自分は、南高の学校生活に満足している」の項目で<b>90%以上(R04 87.4%)</b>の生徒が肯定的な評価になる。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>飛翔祭では、夏休みに登校し、各クラスで工夫を凝らした取り組みがなされている。</li> <li>修学旅行での活動班を決め、それぞれが話し合い、活動先を決めている。</li> </ul>  | B  | <ul style="list-style-type: none"> <li>修学旅行実施後のアンケートで「修学旅行全体を通して満足できましたか」の項目で<b>90%</b>の生徒が肯定的な評価であった。</li> <li>学校評価アンケートで「自分は、南高の学校生活に満足している」の項目で<b>87.4%</b>の生徒が肯定的な評価であった。</li> </ul>  | B      | B        |

| 重点となる具体の学校経営目標（5） 【進路指導】  |   |   |   |   |    |   |    |          |
|---|---|---|---|---|----|---|----|----------|
| LHR・インターンシップ・企業訪問・校外実習等のキャリア教育全般を通して、望ましい勤労観、職業観を育んだ上で、生徒一人一人の個性や希望に沿った進路を実現する。 |   |   |   |   |    |   |    |          |
| 課・室<br>学 科  | 重点目標  | 具体的計画   | 達成基準  | 中間  | 評価 | 最終  | 評価 | 外部<br>評価 |
| 進路<br>指導課   | ・キャリア教育を通して、生徒一人一人の個性や希望に沿った進路を実現する。                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路LHR、「総合的な探究の時間」を通じて、生徒の進路意識を向上させる。</li> <li>・質の高い集会と講話で、専門性を活かした望ましい勤労観、職業観を育む。</li> </ul>                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職希望者の1次内定率 <b>90%以上 (R04 89%)</b>、最終内定率を <b>100%(R04 100%)</b>にする。</li> <li>・進学希望者のうち国公立大学の合格者数を商業学科 <b>25名(R04 27名)</b>、家庭学科 <b>2名以上(R04 2名)</b>にする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路意識向上のため2学期に2年生は、進路説明会（学部研究等）と講演会、1年生は企業ガイダンスと講演会を実施予定である。</li> <li>・3年民間就職希望者 <b>26名</b>は、SPIと一般常識の朝学習、面接指導に取り組んでいる。進学希望者は、小論文個別指導、進学補習など個々の受験に向け準備している。</li> </ul> | B  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業就職希望者 <b>26名</b>全員が1次で内定をいただき、1次内定率 <b>100%</b>を達成した。公務員は2名合格した。</li> <li>・国公立大学商業学科 <b>25名</b>、家庭学科 <b>2名</b>が合格した。</li> </ul>   | B  | A        |
| 家庭科   | ・学科の特性を活かし、生徒の個性や希望に沿った進路決定ができるよう支援する。                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次から、生徒の進路希望状況を共有し、早期から教員間の共通理解・連携を図る。</li> <li>・専門科目の学びをいかした自身の強みを発見することができるよう、社会貢献活動等への参加を推進する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度末の3年生学科アンケートにおいて、「納得する進路決定ができた」とする回答が <b>90%以上 (R04 89.4%)</b>となる。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学科3年生は、これまでの学びを生かした進路実現を目指して努力している。</li> <li>・コロナ禍で自粛していた、保育園での夏のボランティア活動などを再開するなど、少しずつ活動を広げている。</li> </ul>   | B  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生の学科アンケートにおいて「納得する進路決定ができたか」という問いに対し、「できた」、「概ねできた」の肯定的解答が <b>97.3%</b>となった。<b>95%</b>を超える生徒が進路先を決定して卒業を迎えることができた。</li> <li>・「家庭学科の生徒の知識と技術で活動を盛り上げてほしい」という校外からの依頼をいただき、自信を持って社会貢献活動を行うことができた。</li> </ul>  | B  | B        |
| 2年団   | ・LHR、校外学習等のキャリア教育全般を通して、望ましい勤労観、職業観を育む。               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「総合的な探究の時間」や修学旅行において、探究活動を行う。</li> <li>・オープンキャンパスやインターンシップに参加し、学問・職業調べを行う。</li> </ul>                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価調査で「南高では、学校行事や部活動に自主的・主体的に取り組む指導が行われている」の項目で <b>90%以上(R04 97.6%)</b>の生徒が肯定的な評価になる。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで役割を決めて探究活動を行い、まとめたものを、クラスで発表した。これを参考に、個人での探究内容を決定した。</li> <li>・各自の進路希望に合わせて、オープンキャンパスやインターンシップに参加し、学問・職業調べを行い、クラスで発表を行った。</li> </ul>                             | B  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な探究の時間で各自が設定した課題を探究し、その成果をクラス・学年で発表するとともに小論文形式にまとめた。</li> <li>・学校評価アンケートで「南高では、学校行事や部活動に自主的・主体的に取り組む指導が行われている」の項目で <b>97.0%</b>の生徒が肯定的な評価であった。</li> </ul>  | A  | A        |
| 3年団   | ・学年目標である「進路実現」を生徒の意思に沿って達成するため、生徒との対話を大切に、進路指導を充実させる。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路LHRを例年より多く計画している。時期を捉えて適切な情報提供を行う。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路実現に関する質問に対して、生徒・保護者・教員から肯定的な回答を <b>80%以上(R04 84%)</b>得る。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期の進路LHRは、計画どおり充実した内容で生徒と担任がよくコミュニケーションを取れるように実施された。就職者・進学者に対して、適切な時期に指導と情報提供ができています。生徒たちも夏季休業中も利用し、進路目標に向けた努力ができています。</li> </ul>                                    | B  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般企業就職希望者は、1次募集で全員内定を受けた。これは、担任と生徒保護者が面談を重ね、生徒の適性と職種が上手くマッチングできたからといえる。</li> <li>・公務員希望者は、<b>4人中3人</b>が2次試験に進み、<b>2人</b>が合格している。</li> <li>・進学希望者は、四大は国公立 <b>26人</b>を含む <b>134人</b>、短大 <b>30人</b>、専門学校 <b>102人</b>が決定している。</li> <li>・現在、完全未定は <b>3人</b>である。</li> <li>・情報提供については概ね進路目標に到達したことを鑑み、良好であったと考える。</li> <li>・進路実現に関して肯定的な回答 <b>82.3%</b>を得ることができたが、前年度を下回ったこともあり来年度に残す課題とする。</li> </ul> | B  | B        |

重点となる具体の学校経営目標（6）【カリキュラム・マネジメント】

新学習指導要領実施を受け、地域や企業、大学等との連携・協働を進めるとともに、教科横断的な視点に立ち、「コミュニケーション能力の育成」を教職員の共通目標として定め、教科指導、特別活動、学校行事、部活動など本校のすべての教育活動を通して、その育成を目指す。

| 課・室<br>学 科 | 重点目標   | 具体的計画   | 達成基準  | 中間   | 評価 | 最終  | 評価 | 外部<br>評価 |
|------------|--|---|---|--|----|---|----|----------|
| 教務課        | <ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーション能力の育成を軸として、より質の高い授業が行えるよう支援する。</li> </ul>                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>授業評価アンケートを見直し、指導方法の改善の一助とする。</li> <li>保護者への公開授業の活性化を図る。</li> </ul>                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>学校評価調査の「南高では、教え方が工夫され、わかりやすい授業がおこなわれているか」が、<b>80%以上(R04 84%)</b>となる。</li> <li>昨年度より保護者の公開授業への参加数が増える。</li> </ul>                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>5月29日～6月16日（本年度は1週間延長）に授業公開週間を設定し、1学期末には授業評価アンケートを実施し、指導技術の向上を目指した。アンケートについては回答率が<b>70%</b>であったため、後期ではより高い回答率を目指したい。</li> <li>本年度は、参加数増加を目指し、公開時間を拡大、39メールでの広報などを行っている。</li> </ul>              | B  | <ul style="list-style-type: none"> <li>学校評価アンケートの結果、肯定的意見は、生徒は<b>86%</b>(R04 <b>86%</b>)、保護者は<b>82%</b>((R04 <b>84%</b>))、教員<b>82%</b>((R04 <b>86%</b>))と回答。ほぼ横ばいの結果となったが、概ね<b>80%</b>ラインを超えている。</li> <li>保護者の公開授業への参加数は、昨年度<b>64名</b>から今年度<b>57名</b>と<b>7名減</b>となった。今年度は案内文書配布に加え、39メールを利用して呼びかけを行ったが、減少に転じた。次年度については引き続き呼びかけを行うとともに、公開授業の時期の変更も検討する。</li> </ul> | A  | A        |
| 図書視聴覚課     | <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の探究的な活動の支援を行い、コミュニケーション能力の基盤となる自学能力や情報活用スキルの育成を図る。</li> </ul>                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>図書資料、視聴覚資料、インターネットなど多様なメディアの資料の収集・整理・保存・提供を適宜行う。</li> <li>情報活用スキルの習得の支援を行う。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>授業に関連して、図書に関する展示や講義を年間<b>10回</b>行っている。</li> <li>NIEを活用した展示を年間<b>10回(R04 10回)</b>更新している。</li> </ul>                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>「総探」で、進路課・2年団と連携し、年間計画の作成や情報活用、調査・研究に関わる授業作りを行い、実際に<b>7時間</b>の授業を担当した。</li> <li>NIE 掲示板を2階廊下に設置した。図書委員が5月から毎朝新聞<b>7紙</b>を紹介し、気になる記事にコメントを付けて発表している。全校生徒の新聞感想文コンクールへの応募を教科との連携で進めている。</li> </ul> | A  | <ul style="list-style-type: none"> <li>図書館活用教育の一環として、「総合的な探究の時間」に年間指導計画に沿った情報活用の方法等に関する授業を<b>10回</b>(R04 <b>4回</b>)、資料提供は年間を通じて行った。</li> <li>5月から毎朝新聞<b>7紙</b>をコメント付きで紹介し、新聞感想文コンクールに全校で応募するなど、NIEを推進した。その結果、コンクールでは、<b>2部門</b>で最優秀賞を受賞した。</li> </ul>   | A  | A        |
| 商業科        | <ul style="list-style-type: none"> <li>新学習指導要領の実施を受け、地域や企業との連携・協働を進め、教科横断的な視点に立ち、全ての教育活動を通してコミュニケーション能力の育成を目指す。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>小学科の特長が発揮できるような教育課程編成の研究をさらに進めていく。</li> <li>コミュニケーション能力の育成に繋がる授業実践の方法を研究する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>専門科目の学習内容を、カリキュラム・マネジメントの視点で検討し、小学科の特長を確立する。</li> <li>学科アンケートでコミュニケーション能力が身についた・やや身についたと答えた生徒が<b>80%以上(R04 84.2%)</b>になる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>各小学科の特長を発揮するための指導法を教科内で連携しながら工夫する。デジタル教材の活用法についても工夫しながら進めていく。</li> <li>各科目で、生徒のコミュニケーション能力が身についたと、実感できるような場面を授業内で工夫しながら設定していく。</li> </ul>   | B  | <ul style="list-style-type: none"> <li>小学科の特長を発揮させるため、特長的な教育活動を明確化にしてきた。一人一台端末の活用について、情報を共有しながら有効な活用法を研究していく。</li> <li>学科アンケートでコミュニケーション能力が身についた・やや身についたと答えた生徒が、<b>86.8%</b>(R04 <b>84.2%</b>)であった。</li> </ul>  | B  | B        |
| 1年団        | <ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーション能力の育成を目指す。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>授業や学校行事を通じて、集団で活動する機会を多くつくる。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>学校評価調査の項目「南高では、コミュニケーション能力の育成のための指導をおこなっている。」について、生徒・教員の肯定的回答が<b>90%(R04 90.9%)</b>を超えている。</li> </ul>                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>新入生校内研修・校外研修を通じてクラス・学年全体で交流の機会が持て、よいスタートを切ることができた。進路LHRでは職業人インタビューの内容をクロムブックを使ってお互いに発表し合うなど、コミュニケーションをとる機会を設けることができた。</li> </ul>  | B  | <ul style="list-style-type: none"> <li>感染症による制限も緩和され、各行事を本来のかたちで行うことができ、コミュニケーションをとる場を設定することができた。学校評価調査の結果、肯定的回答は、生徒<b>87%</b>、教員<b>92%</b>、保護者<b>58%</b>となった。生徒と教員、生徒同士でのコミュニケーションを今後も積極的にとれる場を設定していきたい。</li> </ul>  | B  | B        |

| 重点となる具体の学校経営目標（7） 【安心・安全】   |  |  |  |   |    |   |    |          |
|---|--|--|--|---|----|---|----|----------|
| 交通安全及び防災に関する啓発を行うとともに、万が一の災害発生時に迅速で適切な対応がとれるよう交通機関との連携を深める。また、安全で安心な学校であるよう施設、設備の美化、点検補修及び更新を進める。 |  |  |  |   |    |   |    |          |
| 課・室<br>学 科  | 重点目標   | 具体的計画  | 達成基準   | 中間  | 評価 | 最終  | 評価 | 外部<br>評価 |
| 保健<br>厚生課   | <ul style="list-style-type: none"> <li>校内美化の徹底</li> <li>防災意識の高揚と危機管理の徹底</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>美化委員会の活動でクラスチェックを月1回実施して、集約したものを報告し、美化意識向上に努める。</li> <li>校内全体の整備を図り、清掃用具汚破損の更新や消耗品の補充を行う。</li> <li>抜き打ちの防災訓練の実施をおこなう。</li> <li>AED シミュレーション研修・エピペン使用研修を開催する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>美化委員会チェックで、全クラス中で清掃不備クラスが毎回<b>5クラス以内</b>になる。</li> <li>教員による清掃場所の点検報告を<b>毎月</b>行い、報告結果をまとめる。</li> <li>全生徒、教職員の防災訓練避難完了<b>8分以内</b>をめざす（体育館・運動場）。（RO4 7分46秒：1学年のみ）</li> <li>教職員の研修者が<b>100%</b>になる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>校内美化への取り組みは、美化委員会を中心にしっかりと取り組んでおり、清掃不備クラスも毎回<b>5クラス以内</b>を保っている。時折お手洗いの清掃（使用上の問題）が指摘されているため、引き続き美化意識を指導していく。</li> <li>教員による清掃場所の点検報告も毎月実施しており、修理を要する場所の早期発見と対応役立っている。</li> <li>9月に実施し全校生徒の避難訓練は<b>8分以内</b>であった。数年ぶりの全校生徒の避難訓練を開催することができた。</li> <li>AED 教員研修については、当日の出張等での不参加者へのフォローもできており、引き続きしっかりと取り組んでいきたい。</li> </ul> | A  | <ul style="list-style-type: none"> <li>美化委員による清掃チェックが定着し、学習環境を整えることが継続できた。</li> <li>安全点検では、修理を要する事案をスムーズに完了して危険箇所のチェックが年間を通してできた。</li> <li>全校生徒による避難訓練では、数年間実施できていなかったが、事前の指導の成果により当初目標<b>8分</b>を切る<b>7分前半</b>で避難完了することができた。</li> </ul> | A  | A        |

| 重点となる具体の学校経営目標（8） 【今後の方向】   |   |  |   |   |    |  |    |          |
|---|---|--|---|---|----|--|----|----------|
| 学科の在り方や商業・家庭両学科の有機的な結びつきに関する研究をより進める。志願者を増やすために小学科の特徴を、より効果的に中学生に向けてPRしていく。 |   |  |   |   |    |  |    |          |
| 課・室<br>学 科  | 重点目標  | 具体的計画  | 達成基準  | 中間  | 評価 | 最終   | 評価 | 外部<br>評価 |
| 総務課   | <ul style="list-style-type: none"> <li>中学校や地域との連携を強化する。</li> </ul>                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>オープンスクールや卒業制作展、学校説明会などで、学校の様子や学科の特色、卒業後の進路が中学生や地域の方にわかりやすく伝わるように工夫する。</li> <li>担当教員に加え、生徒の広報組織を通して、中学校や地域に積極的に情報公開をするとともに、連携を密にする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>オープンスクールの参加人数が7月と9月、10月を合わせて<b>1,500名</b>（RO4 1,447名）を超える。</li> <li>卒業制作展の来校者が<b>1,000名</b>（RO4 475名）を超える。</li> <li>担当教員の中学校訪問を年間<b>2回以上</b>行う。</li> </ul>               | <ul style="list-style-type: none"> <li>オープンスクール参加者<br/>7月中学生 <b>924名</b> 保護者 <b>155名</b> 計 <b>1,079名</b></li> <li>9月中学生 <b>140名</b></li> <li>担当者による中学校訪問を6月に実施した。</li> </ul>                      | B  | <ul style="list-style-type: none"> <li>オープンスクール<br/>7月中学生 <b>924名</b> 保護者 <b>155名</b> 計 <b>1,079名</b></li> <li>9月中学生 <b>140名</b></li> <li>担当者による中学校訪問を6月に実施した。</li> <li>卒業制作展の来校者数は <b>863名</b>、ライブ視聴数は <b>1,289名</b>だった。</li> <li>生徒広報委員による母校訪問も予定通り実施できた。</li> </ul> | B  | A        |
| 商業科   | <ul style="list-style-type: none"> <li>小学科の特長や商業・家庭両学科の有機的な結びつきに関する研究をより進める。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>共通教科や家庭学科との連携により、教科横断的な視点で、魅力ある学びの方法を考えていく。</li> <li>小学科の特長について、専門科の教員が中心となり、中学校訪問やオープンスクールなどでPRしていく。</li> </ul>                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>課題研究や卒業制作展など家庭学科と連携し、互いの学びの成果となるような取り組みを実践する。</li> <li>商業科教員が一丸となり、中学校訪問やブログ、YouTubeなどのICTを活用し、積極的に情報発信を行うことができる。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>今年度も両学科の課題研究や卒業制作展で連携できるのであれば、積極的に連携していく。</li> <li>商業学科の魅力伝えるために、卒業生のインタビューや、学校生活の様子をYouTubeやブログなどを活用して配信していく。中学校の先生方にも学校訪問や説明会などを通して今後もPRしていく。</li> </ul> | B  | <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の生き生きとした姿をブログやYouTubeなどを活用して、積極的にPRしていく。オープンスクールでは生徒が中心になって活動し、その効果は非常に大きいと感じている。</li> <li>今年度も各小学科の特長を意識して、課題研究や卒業制作展など、家庭学科とも連携した取り組みを実践することができた。</li> </ul>  | B  | B        |
| 家庭科   | <ul style="list-style-type: none"> <li>魅力ある学科づくりに向けての取り組みを行う。</li> </ul>                | <ul style="list-style-type: none"> <li>共通教科や商業学科との連携により、教科横断的な視点で、魅力ある学びの方法を考えていく。</li> <li>ブログ・動画配信等を通じ、情報発信に努める。</li> <li>社会人講師による授業や、近隣の大学・企業等との交流を積極的に行う。</li> </ul>             | <ul style="list-style-type: none"> <li>課題研究や卒業制作展など商業学科と連携し、互いの学びの成果となるような取り組みを実践する。</li> <li>ブログの発信を年間<b>70件</b>（R4 75件）以上することができる。中学生が興味を持てる動画を配信することができる。</li> <li>校外での体験活動を、各学年で<b>1回以上</b>実施する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>卒業制作展で行う商業学科と家庭学科のコラボ企画について、多くの方に賛同してもらえるよう意欲的に活動している。</li> <li>ブログの発信を<b>50件</b>（9月末時点）行った。</li> <li>3年生活創造科のマナー講習会、2年服飾デザイン科の児島校外研修を実施した。</li> </ul>     | B  | <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学科の学びの様子を中心に、1月末までに<b>78件</b>のブログを通して情報発信することができた。年度末まで発信を続けていきたい。</li> <li>校内外において、家庭学科の学びを生かすことができる活動に参加することができた。</li> <li>学びを深めることができる校外研修を検討し、学年に応じた体験的な学習を行うことができるように検討していきたい。</li> </ul>                                | B  | B        |

| 重点となる具体の学校経営目標（9） 【働き方改革】  |  |  |   |  |    |  |    |          |
|--|--|--|---|--|----|--|----|----------|
| 生徒と向き合う時間を作り出すため、業務の効率化、勤務負担の軽減に取り組み、一方で同僚性の向上を図り、健全な職場環境を構築し、教職員のQOL（生活の質）の向上を図る。 |  |  |   |  |    |  |    |          |
| 課・室<br>学 科   | 重点目標   | 具体的計画  | 達成基準  | 中間   | 評価 | 最終   | 評価 | 外部<br>評価 |
| 総務課  | ・業務を整理し、仕事の分散化をはかる。                            | ・デジタル室との連携をはかる。<br>・広報活動は専門科と協力して進める。  | ・担当者が変わった場合もスムーズに仕事が引き継げるよう、データ等を引き続き整理する。  | ・今年度も総務課内の仕事の分担を図っている。   | B  | ・総務課が企画係として立案し、先生方の協力を得ながら各行事を行うことができた。  | B  | B        |
| 教務課  | ・より良い協業体制の構築を目指すとともに、業務の軽減を図る。                 | ・係ごとの年間スケジュールを作成、ヒアリングを行ったり、定期的な課会の開催をすることで、課全体の動きを課員全員で把握する。<br>・業務の軽減のため、採点システムを活用する。            | ・課員を対象としたアンケートで「仕事の効率化が図れたか」などが、 <b>70%以上(R04 60%)</b> となる。また、定期的な課会を開催する。<br>・他課との連携した企画を <b>3つ以上</b> 行う。  | ・課会については1か月に <b>1回</b> 、短時間で行うように設定し、課全体での情報共有を図っている。その際、係の仕事の進捗状況が分かりやすいように業務予定表を提示している。<br>・情報デジタル室と連携し、時間割ソフトの導入を進めている。<br>・総務課と連携し、留学生受け入れの準備を進めた。 | B  | ・アンケートの結果、 <b>71%</b> が「効率化が図れた」と回答。また、定期的に課会を開催することができた。<br>・また、他課との連携をした企画を <b>3つ以上</b> 行うことができた。<br>・また、教員の採点システムの使用率については、アンケートの結果、 <b>85%</b> が使用していることが分かった。 | A  | A        |
| 生徒課  | ・勤務負担の軽減にも取り組みながら、教職員の同僚性の向上を図って健全な職場環境を構築させる。 | ・課全体で情報共有を積極的に行う。<br>・指導の統一を図り、健全な職場環境を構築する。<br>・時代の変化に応じた指導をする。                                   | ・月一度の定例会議を開催する。<br>・広く意見を集約し、共通認識を図る。<br>・仕事が偏らず、課全体で協力する。<br>・教職員アンケートによる充実度が <b>70%以上(R04 未実施)</b> になる。   | ・定例会議を行うことで、意見交換・共通理解が図られ、係の負担軽減につながり、職員会議をスムーズに迎えることができた。<br>・課全体で協力する体制ができ、仕事の偏りが軽減されるようになった。  | A  | ・定例会議をすることで、情報交換を行うことができ、各係が行事等で適切な対応ができた。また、生徒指導等の共通理解も図れた。会議が長時間に渡ることがあったのは反省点ではあるが、さまざまな課題に対して機能的に対応できた。<br>・各係の役割分担や協力体制ができ、業務の効率化につながった。                      | A  | A        |
| 図書視聴覚課   | ・学校組織の活性化と業務の効率化に向け、図書館活用における教科間の連携を図る。        | ・図書館活用教育や情報活用スキルに関する情報提供を行い、教科間の学習内容を相互に関連づけたり、精選したりできるようにする。                                      | ・校内の図書館活用教育の概要を <b>年2回(R04 1回)</b> 報告し、全教職員が授業計画や授業内容の見直しを効率よくできるようになっている。  | ・HPの情報活用に関するリンク集を更新したうえで、各教科での活用を促した。それによって、各教科等で探究的な学びが円滑に進められている。<br>・11月には各教科の図書館を活用した授業の概要を伝える広報紙を配付する。教科を越えた情報共有を行うことで、効率よく授業内容の精選ができるようにしたい。     | B  | ・南高 HP 内の図書館のリンク集について、職員会議等で広報し、情報活用教育活用を推進した。<br>・図書館を活用した授業事例について広報紙を通じて11月・2月に情報発信し、授業開発の手立てとした。  | B  | B        |
| 保健<br>厚生課  | ・学校組織の活性化と業務の効率化                               | ・PTA 各委員会のさらなる活性化を目指し、クラス役員・3役から組織される各種委員会の取り組みの充実を図る。<br>・各種委員会に教員を配置し、学校からの要望や、取り組みの舵取り役を担ってもらう。 | ・ <b>年3回</b> 開催(予定)される PTA 役員会において、4委員会も開催しそれぞれの取り組みを具体化していく。<br>・PTA 役員会の出席率(委任状を含む)が <b>90%(R04 65%)</b> を超える。<br>・令和5年度の活動成果をまとめて次年度へ送る資料が出来る。 | ・PTA 役員会も出席率が向上し、コロナ禍対策前の状況に戻りつつある。<br>・ <b>4委員会</b> の活動もスムーズに進行しており、特に飛翔祭での広報委員を中心とした PTA バザーは好評であった。   | A  | ・PTA 活動が従前に戻りつつあり、それぞれの小委員会が積極的に活動できた。飛翔祭では販売も実施することができた。<br>・PTA 役員会は高出席率を維持し、意見交換や学校の様子を知っていただける貴重な会を運営することができた。<br>・2月22日の役員会で、次年度に向けての取り組みを協議していく予定。           | A  | A        |
| 人権・教育相談室   | ・適切な業務内容と業務分担を確立し、効率的に業務を行うよう努める。              | ・定期的に業務について情報交換を行い、業務内容と業務分担について工夫していく。  | ・SCによるカウンセリング後の連絡、報告会がスムーズに進行するよう努め、カウンセリング実施日の <b>半数を超える日</b> が勤務時間内に終了する。   | ・SCによるカウンセリング後の連絡報告会について職員会議で周知したことにより、スムーズな進行のために先生方が協力してくださるようになったことで勤務時間内に終了することが多くなった。   | B  | ・SCによるカウンセリング後の連絡報告会について職員会議で周知したことに加え、現況についてきめ細かな情報収集を行い、場合によっては学年主任の先生にも協力いただき、スムーズな進行ができています。勤務時間内に終了することが多い。   | A  | A        |

